



新春を迎えて

南富良野町長 池部 彰

平成十九年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、佐呂間町で発生した国内最大の竜巻により多くの方が被害に遭われ、自然の驚異を改めて感じさせられた年でありました。また、飲酒運転による事故をはじめ学校でのいじめを苦にした自殺が相次ぎ大きな社会問題となりました。一方で、夏の甲子園で駒大苫小牧高校が三年連続で決勝に進出し準優勝したほか、北海道に移転して三年目となる北海道日本ハムファイターズが四十四年ぶりとなる日本一に輝くなど、明るい話題も記憶に新しいところでございます。

また、二月にイタリアで行なわれた、トリノオリンピック女子カーリング競技に、本町出身の目黒萌絵さんと寺田桜子さんが所属する「チーム青森」が日本代表として出場し、本町出身者として史上初となる「オリンピック出場」という快挙を成し遂げられ、町民の皆様とともに、二人の活躍ぶりに大きな感動と勇気をいただいたところでございます。

さて、国の経済は、構造改革が進む中、高度経済成長期の「いざなぎ景気」を超える戦後最長の景気回復が続いていると言われておりますが、道内の経済環境は依然として厳しい

状況が続いております。

本町の商工業については、購買力の減少や流出など、町内消費の落ち込みが著しい状況の中、行政といたしまして、商店企業の経営安定のため、町公共工事であります普通建設事業費の確保や商工会への助成、事業主への経営安定貸付金制度、新規事業に対する補助金制度のほか、持家制度や民間賃貸共同住宅建設促進事業など様々な施策を展開してきたところであります。今後とも商工会などと連携を図りながら、商工業の振興発展に努めてまいります。

農業についてはありますが、昨年は雪解けの遅れや低温・日照不足、さらには八月上旬の大雨などにより、農作物の栽培には大変難しく厳しい気候であったと思います。本町の基幹産業である農業の安定と振興は、まちづくりにとって欠くことのできないことであり、生産者や関係機関の意見を踏まえて、これからも様々な施策を講じてまいります。

地域福祉については、現在、金山地区に建設する特別養護老人ホームの基本設計と実施設計を行っており、平成十九年度に施設の建設を行い、平成二十年度に開設する予定でございます。この施設は、高齢者福祉の充実と金山・下金山地区の地域振興、さらには地域医療福祉の基盤を強化するために建設するものでございますので、町民皆様の深いご理解をお

願い申し上げます。また、昨年十月従来の総合福祉センターを改修して、保健と福祉の総合施設「南富良野町保健福祉センターみなくる」をオープンし、乳幼児から高齢者・障害者までの健康づくり・しあわせづくり・生きがいづくりの創出の場として、より質の高い福祉サービスを提供する拠点施設として整備させていただきました。今後につきましても地域福祉の推進に努めてまいります。

今、地方行政は、国の財政運営と構造改革をはじめとする地方分権の推進により、地方行政のあり方、住民自治のあり方が大きく変わろうとしている中で、一層厳しい行財政運営が求められています。平成十九年度においても、本町財政の見通しが大変厳しい中ではありますが、事務事業の再点検を行い、皆様の要望に応える事業や地域振興に努めてまいります。

今後、本町を取り巻く環境がどのように変化していくのか、予測が大変難しい状況であります。町民皆様とともに、持続可能な町政と町民皆様に望まれる地域社会の実現に向けて、町職員一丸となり、本町のまちづくりを鋭意努めさせていただきます。ご多幸を願いつつ、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成十九年 元旦